

第3学年 国語科学習指導案

平成21年10月21日
授業者 美郷町立大和中学校
日高 博美

1 単元名

「古典を味わおう」（漢詩二編）

2 単元の目標

- 意欲的に音読、朗読に取り組み、古典の美しい響きを味わう。（国語への関心・意欲・態度）
- 古典作品に描かれている情景や作者の思い、ものの見方、感じ方をとらえる。（読むこと）

3 学習の基盤（生徒観は省略）

- 本単元では、古典作品を読み、その優れた表現やリズムを味わう学習を中心としている。古典の学習を通して、日本文化の中に伝統として脈々と息づいている美意識や価値観にふれることは、日本に生きる自分自身や現代の社会を見つめ直すうえで、大きな意味を持つと考える。
本時では「万葉・古今・新古今」「おくのほそ道」の学習に引き続き、日本人にとっての古典詩歌でもある漢詩を取り上げる。日本と中国の古典作品とのかかわりは深く、古くは大和・奈良時代の昔から、日本文化を築く礎石としての役割を果たし、文芸の世界では、その影響を受けなかった分野は皆無である。中でも唐詩は、平安時代の勅撰漢詩集編纂の原点となり、「古今和歌集」以降の和歌・随筆・物語などにもその血脈は受け継がれている。前学習材の「おくのほそ道」にも影響を与えた杜甫・李白の二人の詩人が作った代表的な詩を学ぶことは、中国と日本との文化的な関わりを知るうえからも有意義である。
- 指導にあたっては、単元名にもあるように「古典を味わう」ということに主眼を置きたい。古文や漢詩の優れた表現やリズムに注意して音読したり、朗読したりすることを通して古典の楽しさや古典の美しさに改めて気づき、中学校3年間の古典学習の総まとめとなるようにしたい。
本時で学習する漢詩については、まず中国語での読みや、書き下し文の朗読を聞くことから始め、漢詩のリズムの美しさに気づかせたい。その後、一人での音読、ペアでの音読などにも取り組むことにより、自分の読みへとつなげていきたい。前学習材「おくのほそ道」で、杜甫の名前や「春望」の一部も出てきているので生徒にとっては、これまでの学習とのつながりが見え、より興味のもてる詩ではないかと思われる。また、グループでの活動を取り入れ、漢字一字一字に注目することを通して、詩に描かれている情景や詩に込められた作者の思いを考えさせたい。仲間ともに考え合い、学び合うことは、本校の研究主題「人・もの・こと」との関わりの中で、自らを高めていく生徒の育成にもつながると考える。

4 単元の指導計画及び評価計画（全11時間）

時間	学 習 活 動	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
第1次 4	<ul style="list-style-type: none"> ○「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」の成り立ちや特色等を知る。 ○和歌のリズムや意味の切れ目に注意して朗読する。 ○好きな歌を一首選び、感想を書く。 ○和歌の修辞について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動に見通しをもち、意欲的に朗読に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの和歌の特徴をとらえ、リズムや意味の切れ目に注意して朗読している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書くときに適切な語句、表現を用いている。
第2次 4	<ul style="list-style-type: none"> ○「おくのほそ道」について知る。 ○古文のリズムを感じながら繰り返し音読する。 ○芭蕉のものの見方や感じ方を捉える。 ○好きな部分を選んで暗唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「おくのほそ道」と芭蕉について理解しようとしている。 ・芭蕉のものの見方や感じ方を捉えようとしている。 ・意欲的に暗唱に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名遣いなどに注意して音読するとともに、現代語訳を参考にして、古文の内容を捉えている。 ・文章の特徴やリズムを生かしながら音読・朗読をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読、朗読をするときに、言葉のまとまり、意味の切れ目などに注意している。
第3次 3 本時 1/3時間	漢詩二編 <ul style="list-style-type: none"> ○「春望」の中にある漢字に注目しながら漢詩を読む。 ○「黄鶴楼にて…」を読む。 ○「学習のポイント」を参考に漢詩の形式について理解し、好きな詩を暗唱する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢詩に興味をもち、書き下し文を意欲的に音読する。 ・意欲的に暗唱に取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の中の漢字に注目し、詩に描かれている情景や詩に込められた作者の思いを考える。 ・漢詩の形式について理解する。 	

5 本時の学習

○目標

- ・漢詩に興味をもち、書き下し文を意欲的に音読する。(国語への関心・意欲・態度) * 1
- ・詩の中の漢字に注目し、詩に描かれている情景や詩に込められた作者の思いを考える。

(読むこと) * 2

○人権・同和教育とのかかわり

- ・グループでの話し合いの中で、自分の思いを正確に伝えたり、友だちの意見をしっかりと聞いたりする技能や態度を育てる。
- ・様々な願いをもって生きる人間の真実や生き方を考える中で、人間の誇りや尊厳について認識を深める。

○展開

学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
○ホワイトボードに書かれた「春望」の白文を見て、これは何かを考える	○ホワイトボードに書かれた白文を見せる。	
○「春望」の中国語読みを聞く。	○中国語で「春望」を読む。	
○訓読文について思い出す。	○黒板に掲示した白文に返り点と送り仮名を付けながら読み、訓読文として示す。	
○書き下し文の読みを聞く。	○書き下し文を読む。	
○書き下し文を音読する。	○教科書を見せずに、プリントを配付し書き下し文を確認する。	[評価*1] (自己評価カード、観察)
○グループになって、この詩の中で大切だと思う漢字(または熟語)を三つ選び、その理由をワークシートに記入する。	○教科書の脚注は見せずに、生徒の自由な意見が引き出せるようにする。 必要に応じて漢和辞典を使うよう助言する。	[評価*2] (ワークシート)
○グループで話し合ったことを発表する。		
○教科書の脚注を参考にしながら、現代語訳を確認し、自分たちの選んだ漢字や熟語を見直してみる。		

○本時の具体的な評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	努力を要すると判断される生徒の具体例
* 1	漢詩のリズムをとらえ、自分から進んで何度も声に出して読む練習をしている。	リズムに気をつけながら、何度も声に出して読む練習をしている。	声に出して読んではいるが、リズムに気をつけずにただ読むだけになっている。
* 2	話し合いにおいて、詩の中で大切だと思う漢字を理由とともに挙げ、積極的に意見を述べている。	話し合いにおいて、詩の中で大切だと思う漢字を挙げている。	話し合いに参加はしているが、自分の考えを述べることができていない。